

平成 25 年度第 1 回四街道市みんなで地域づくり推進委員会

【開催日時等】

<開催日時>

平成25年7月2日（火）14時～16時

<開催場所>

保健センター3階第2会議室

<出席者>

（委員）庄嶋委員長、江口副委員長、大沼委員、原委員、小島委員、熊倉委員、中村委員、猿橋委員、丸野委員

（事務局）大野政策推進課長、森田市民活動推進室長、齋藤副主査

（みんなで地域づくりセンター）NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ（NPOクラブ）勝又副代表理事

<傍聴者>

4人

次第

1 開 会

2 委員長挨拶

3 議 事

（1）平成 24 年度地域づくりコーディネーター業務報告について

（2）平成 25 年度地域づくりコーディネーター業務計画について

（3）平成 24 年度地域づくり活動助成事業報告について

（4）みんなで地域づくり事業提案制度について

（5）その他

4 連絡事項

<資 料>

資料No. 1 平成 24 年度地域づくりコーディネーター業務報告

資料No. 2 平成 24 年度みんなで地域づくりセンター関連資料

資料No. 3 平成 24 年度市政だより資料

資料No. 4 平成 25 年度地域づくりコーディネーター業務計画

資料No. 5 平成 25 年度みんなで地域づくりセンター関連資料

資料No. 6 平成 25 年度市政だより資料

資料No. 7 平成 24 年度地域づくり活動助成事業関連資料

資料No. 8 みんなで地域づくり事業提案制度関連資料

資料No. 9 四街道市 NPO・ボランティア関連事業一覧表

資料No.10 みんなで地域づくり推進委員会開催予定

(開会)

【事務局（森田室長）】

定刻になりましたのでただいまからみんなで地域づくり推進委員会を開催いたします。

本日 8 名の出席をいただいております。

みんなで地域づくり推進委員会要綱第 7 条第 2 項に規定する過半数に達しておりますので委員会が成立していますことを報告します。

それでは委員会に先立ちまして大野政策推進課長より挨拶申し上げます。

【事務局（大野課長）】

本日は大変お忙しい中お集りいただきましてありがとうございます。

皆様のおかれましては昨年 4 月より 36 のアクションにも掲げております「みんなで地域づくり事業提案制度」の策定に係る審議、検討、また具体的な提案が挙がってきた際の公開プレゼンテーションにつきまして長時間に渡ってご審議いただきまして誠にありがとうございました。

すでに採択事業につきましては順調に実施されておまして、市政だよりやホームページなどでも広く市民の皆様にもご紹介させていただいております。

またこの制度が市民の皆様にとってよりよいものとなるよう改善を加えていきたいと考えております。

ひとつ課題として事業の評価ということがあります。

今年度事業が終わったあと来年度に事業の評価がありますが、評価につきましても今回、次回を目処に皆様にご意見、ご審議いただければと思います。

またみんなで地域づくりセンターにつきましても 3 年目を迎え、当市の地域づくりをより一層進めていくための推進役としてさらなる取組みを進めているところです。

委員の皆様からのご意見、アドバイスなどを頂戴しながらセンター運営に活かしてまいりたいと考えております。

このあと担当よりご説明いたしますが、本日の千葉日報で「ドラマチック四街道プロジェクト」を今月から始めるという内容が掲載されております。

今後新たな総合計画の中でも市の魅力を発見、創生して積極的に市内外に向けて PR していくという点に力を入れていきたいと考えております。

それに先立ちまして「みんなで地域づくり」の視点、市民のみなさんに参加いただきながら四街道市の魅力を発信していこうということで「ドラマチック四街道プロジェクト」を始めたいと思います。

今回始めとして、市民の方に出演いただきながら動画を制作しました。

また今月の市政だよりでもご覧になった方もいらっしゃると思いますが、「みんなでカレンダープロジェクト」ということで、四街道に関わる方が、四街道に対する想いをスケッチブックに書いていただき、日めくりカレンダー形式で公開するといった市民参加型のプロジェクトを進めております。

それらの取組みを紹介するナビゲーター役として「よつぼくん」というキャラクターを四街道市地域振興財団と協力して作りまして、このプロジェクトを進めていきたいと考えております。

よつぼくんにつきましては、市の公式キャラクターという位置づけではなく、プロジェクトのナビゲーターとしての位置づけですので、今後市民の皆様の賛同を得ながら成長していければと思っております。

今後、みんなで地域づくりの観点でもシティプロモーションについても進めて参りたいと思っておりますので、皆様からの忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

【庄嶋委員長】

それでは会議の公開、非公開について、原則この会議は公開ということになっておりますが、本日の資料等を見まして特に非公開という内容はないと思いますので、公開でよろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【庄嶋委員長】

それでは傍聴者の方にご入室いただいでください。

(傍聴者入室)

(委員長挨拶)

【庄嶋委員長】

改めまして、こんにちは。

暑くなってまいりましたが、前は今年の2月でしたので、半年近く経っているということになります。

皆さまにおかれましては、四街道にいらっしゃる、あるいは四街道の近いところにいらっしゃるの、この間いろいろな変化等を体感されているのかと思いますが、私は半年も来ないと全く四街道の動きが分からなくなってしまっているところがございます。

私事なのですが、私は東京都の大田区に住んでいるのですが、ちょうどこの間少し変化がございまして、もともと小学校のPTA会長をやらせていただいているのですが、本年度、正確に言うと7月以降を平成25年度と呼ぶのですけれども、大田区立小学校PTA連絡協議会、小P連の会長に就任いたしまして、これからの1年間はコミュニティの中のPTAを代表して行動するということになりました。

もともと私はNPOなどの活動から市民活動に入ったのですが、地縁型といわれる自治会・町会などといわれるもの、それに比べると規模は小さいかもしれませんが、学校のPTAというのも一つの地縁型のコミュニティであると思うのですが、動いている人数とか若い人の数とかでいうと、まちづくり・地域づくりに期待される人材がそろっているところかと思っておりますので、これまで得てきた知見を生かして、そういった自分のまちのコミュニティづくりをやっていきたいなと思っております。

今日は本年度の第1回目の委員会ということになります。

2月に行った前年度最後の委員会は、提案事業の審査でしたので、また一般的な話題の方に戻って話し合う部分が主になってまいります。

お手元の議題をご覧くださいますと、今年度最初ということなので昨年度の地域づくりコーディネーターの業務報告、今年度の業務報告がまずあります。

そして我々がこの間審査したのは、みんなで地域づくり事業提案制度という新しい制度に基づく事業でしたが、前の制度である地域づくり活動助成事業の最後の年度で、事業が終わったということなので、その事業報告をいただくということがあります。

最後に先ほど課長の話にもありましたが、提案制度の次の課題としては事業の評価ということがありますので、今日の中心的な話題になると思っていますので、よろしく願いいたします。

それでは時間としては2時間程度を目処として進めていきたいと思います。

まず平成24年度の地域づくりコーディネーター業務報告について、事務局からよろしく願いいたします。

【勝又（NPO グラブ）】

それでは平成24年度の地域づくりコーディネーター業務委託事業の報告をいたします。資料の1をご覧ください。

皆様には昨年11月の委員会で11月分までご報告をしていますので、主にそれ以降のところを中心にポイントを絞ってお話しをしたいと思います。

まず施設の利用状況ですが、年間を通した数字を挙げております。

来所者数が5,933人、打ち合わせスペース利用団体数が311団体、新着情報が414件、相談件数が68件です。

平成23年度と比較しますと、来所者数が増えていますが、大きく違っているところでは、打ち合わせスペースの利用団体数が約2.5倍になっており、それに対して新着情報は2件減っています。

ぶらりと寄ってチラシなどを持っていくということは場所的にもなかなかできない、団体も印刷機などがないので、そういった用事では来ないということで、打ち合わせスペースでいろいろな地域づくりに関することで利用をしているという傾向が見られます。

また相談件数も増えていますが、一番多かったのは分類している中では地域の課題や活性化について実際に地域づくりをする中で団体の紹介ですとかいろいろな活動につながるという相談が多くみられました。

次は2ページからです。

センターの主な業務では、センターの役割として地域課題への取組みのプロデュースに関する事と地域づくりを担う主体のネットワークに関する事ということが大きく挙げられています。

これらに関しては意見交換、情報交換の場の地域づくりサロン、それから地域課題をテーマとした講座を開催し、また多様な人が参加する企画などを開いて、地域の課題の取組み、それからネットワークなど次につなげることを目指して活動を行ってきました。

まず、地域づくりサロン「作っちゃおう！四街道のご当地グルメ」は平成24年度から始まったものです。

もともと市からセンターでサロンの形式でというご提案をいただいて4回開催しまして、市民の方と話し合う中で「よつグルメ研究会」が立ち上がりました。

資料に記載がありますが「ガレット」や「鹿放パン」など四街道の素材を使ったグルメづくりにチャレンジするということでコラボ四街道に申請して採択をされました。

年度中にはパッケージの学習会などを行っています。

今年度に関しても活動を続けて、四街道のグルメづくりを進め、当面の目標は産業祭に試作を出すということで活動をしています。

次に、みんなで地域づくり事業提案制度「コラボ四街道」のサポートについてです。

「コラボ四街道」が平成 24 年度に始まりましたので、センターとしてもそのサポートをということで、センターでの説明会と申請書の書き方相談会などを行いました。

次年度の課題として、団体がコラボ四街道への提案力をつけられるように早い時期からサポートするということが挙げられます。

平成 25 年度に「コラボ塾」を連続講座で開催していますが、「コラボ塾」を通じて団体のサポートや提案力をつけていくということを進めています。

4 ページは地域づくりサロン「自治会情報交換会」です。

年度内に 3 回開催しました。

自治会の共通の課題として高齢化、それに伴う人材の問題、自主防災組織などがありました。

平成 25 年度につきましてもそのような課題に取り組んでいきたいと思えます。

それから防災ネットワークづくりは、平成 23 年度に連続防災講座から引き続いて、自治会から防災活動についての相談受付や講師の紹介などの依頼がありコーディネートを行いました。

また、災害弱者救援のための関係機関と自治会などとの連携についての意見交換を行いました。

5 ページ、これも新しい企画です。

地域づくりサロンで「マップ活用交流会」を行いました。

市内ではこれまで作られた歴史、自然、文化、健康、福祉、子どもなど 30 種類以上のマップが作られています。

それを整理してまちの魅力を発信することにつなげようということで、資料に掲載している参加団体の他 2 団体が参加しております。

交流会を開催する中で、「お宝マップ見本市」及びモニターツアーを開催しようということ、またマップの web 掲載をしようということで今年度実施に向けた検討をしました。

配布資料で 6 月 29 日に読売新聞に掲載していただきました循環コース、魅力発信コースを選んでその中から来所して下さった方に、どこのコースに行ってみたいかのアンケートをし、10 月にモデルコースについてのモニターツアーを行って、これからの魅力発信に役立てていこうと思っています。

次に 6 ページ、地域づくりサロン「子ども支援団体交流会」は、平成 23 年度にも 1 度行いましたが、今回子育て支援、子ども支援に関わっている団体が集まって、子どもが置かれている環境の課題について話し合おうということで、支援者同士の交流・情報交換をして、勉強しながら取り組むことが必要だという意見が出されています。

今年度も継続して行っていきたいと思えます。

次に7ページ「多様な人や団体が地域づくりに参加する企画」として、平成23年度から継続して行っています福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」の第3回、第4回を開催しました。

来場者数も少しずつ増えて、第4回目は文化センター主催の講座参加者が多かったこともあり700名近い来場がありました

また障害者支援課をはじめ相談を受け持っている障害者就業・生活支援センターなどの協力も得ております。

フェアの2回目から地域振興財団の共催をいただき広報、会場の提供などをいただいております。

平成25年度も第5回目として6月21日、22日に開催しております。

次に8ページ「夏休み小学生ボランティア体験」を昨年に引き続き行いました。

7団体が体験受け入れしてくださり、小学生が延べ108名参加しています。

今年度も行いまして、先日の市政だよりに掲載され明日から受付ということで、本日2人程、問い合わせをいただいております。

各団体10名ずつ程の受け入れですが、申し込み当日は電話が鳴りやまないほど人気のある企画になっています。

それから「四街道子ども記者クラブサポート」です。

平成23年度実施した「子ども記者育成講座」のサポートスタッフを中心に立ち上がった子ども記者クラブの活動をサポートしています。

「こども記者クラブ通信」3万部発行の他、「四街道子ども記者展」などを開いています。

今年度も継続して行っていて、新たなスタッフの募集、こどもたちの記者講座などを行っています。

10ページ、平成24年度新規に実施した企画です。

旭公民館の自主事業「あさひ寺子屋」への企画、運営の協力を夏休みに行いました。

公民館の第5週目が定例の予約などが無いということで、その活用と地域に開かれた公民館の活用ということ、また子どもたちと大人、大学生などが交流する場を作ろうという企画です。

この企画の特徴としまして、様々な主体の連携ということで、みんなで地域づくりセンター、地域振興財団との連携があり、大学生のスタッフ、高校生、地域のNPO、公民館サークル、自治会、小学校、高校の吹奏楽部、ダンス部など関わりが広がっているところです。

今後も公民館を拠点とした地域づくりを進めていきます。

11ページは「地域と大学との連携」で、センターとして地域の大学、高校、中学校を含めて地域と学校との連携を進めています。

センターに関することとしては、地域づくり体験プログラム「コラボラ」を行ったのですが、その際に淑徳大学の授業の場において参加呼びかけなどをさせていただきました。

また社会教育実習、インターンシップの受入れなどを行っています。

次はSAVE JAPANプロジェクト「四街道星降る夜のホタル観察会」です。

日本NPOセンター、損保ジャパンとの共同事業を後援し、支援団体として受託者であ

る NPO クラブ、それから実施団体として四街道自然同好会、市内の環境保護団体 9 団体と非常に多くの団体の方に協力をいただき、参加者も市内外から多くの方に参加していただきました。

四街道のホタルを通した魅力を知る企画になりました。

次に 12 ページ、地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供についてのセンターの役割です。

今年度特に中心になったのは、市民活動情報サイトの年度末閉鎖のお知らせと団体の情報発信に関するセンターでのサポートについてのお知らせについてです。

これまでも市民情報サイトの活用、団体の情報発信をどのようにサポートしていくかを話し合ってきましたが、閉鎖に伴ってセンターでひとつ facebook などの団体ページを団体で作って情報発信するサポートを行っていくと、もうひとつはセンターのホームページの制作に向けて 2 月から 3 月にかけて準備をし、平成 25 年度の 4 月に開設をしています。これまでセンターでブログ、facebook、センターニュースなどで様々情報発信をしていましたが、地域づくりの取り組みを整理して全体を伝えるということ、またホームページの中に「みんなでカレンダープロジェクト」の写真なども掲載して様々な形での情報発信につながればと思っています。

課題として、現在は市民団体の情報が掲載されていませので今年度前半で進めてまいります。

それから、地域づくりを担う主体からの相談としては 68 件で、地域課題や地域活性化に関するものが一番多く 29 件、その他会計・税務が 9 件で、これは市民活動団体の会計相談日というのを月 1 回開いていて、そこで出た相談が 8 件あります。

13 ページは、地域づくりに関する講座・講習会です。

14 ページをご覧ください。

千葉県の県民活動促進事業で「ボランティア・マネジメント入門講座」を行いました。この講座を生かして地域づくり活動体験プログラム「コラボラ」を開催いたしました。それについては 15 ページです。

地域活動団体が体験プログラムを 2 日から 3 日企画しまして、そのプログラムを紹介して参加者と団体との交流、体験申し込み受付ということで実施いたしました。

参加者は 46 名、総勢 75 名で大変人気がありました。

当日の体験申し込みが 16 名でした。

現在もまじゅりんこ、昔遊び伝承塾、手話ダンスよっかいどうなどに継続して参加が行われています。

また参加した団体を中心に今後も団体とセンターと一緒に企画を検討していこうということになりました。

16 ページでは地域づくりリーダー養成講座です。

いすみ市のいすみライフスタイル研究所の活動紹介と現地見学などを行いまして四街道の魅力を発見しようという講座を、第 1 回目はいすみライフスタイル研究所にお越しいただいて講演、2 回目は現地のバス研修、現地見学会を行いました。

1 回目、2 回目に話を聞いたり、見ながら絶えず四街道にはどういう魅力があるか、ど

のように発信しようかとかということを書いたシートを書いて3回目は四街道の魅力について考えました。

最後は各グループからキャッチコピーをいくつか挙げて、その中から一押しのキャッチコピーを発表しあいました

よつグルメ研究会のメンバー、マップ活用交流会のメンバー、またこれまで様々な講座などに参加していただいた方にお声かけをして、四街道の魅力発信につなげていく場しようということによって講座を開きました。

18 ページは「広報力 UP!NPO・市民活動団体向け「地域づくりのための facebook 活用講座 入門編」です。

団体の情報発信に facebook のページを生かしていこうということで、2月23日に日本財団の山田さんにおいでいただき、ソーシャルメディアについて、facebook てなあに？ということで概論をお話しいただきまして、第2回目は小島さんに講師になっていただき、実際に facebook を操作しようということで、午前10団体、午後10団体が参加し行いました。

講座を受けた団体の中で facebook ページが10団体程できて、情報発信あるいは情報交換をしています。

19 ページは団体の情報開示、研鑽なども含めた情報開示も必要であるということで、公益ポータルサイト「ちばの WA!」での情報開示のススメの講座を行いました。

また活動支援ミニ講座としては、個々の団体の facebook の使い方などを個別にサポートを行いました。

20 ページは視察の受け入れなどについてです。

資料2にチラシ、資料3で市政だよりへの企画のご案内などが出ておりますのでご覧いただければと思います。

【庄嶋委員長】

ありがとうございました。

ここまで昨年度のコーディネーターの業務報告でしたが、ご質問、確認したいことがありますでしょうか。

【江口委員】

私が大変興味を持っているのは「鹿放パン」です。

鹿放パンに何故興味を持っているかということ、地域おこし、地域づくりにもものすごく深く関わっているということだと思っております。

開拓の事業の中から鹿放パンというのが生まれてきているので、ただ単というパンという食べ物の問題だけではなくて、鹿放パンに込められている意味、歴史的な背景、そういうものがどのようにこの鹿放パンがご当地グルメづくりの中で広げられてきているのか、その辺のところをお聞きしたいのです。

【勝又（NPO グラブ）】

ご当地グルメ研究会の中で、9月28日に鹿放パンについてのヒヤリングを行い、パンを作っていた阿部さんなどの話を伺い、試食なども行いました。

並行して CATV296 でも鹿放ヶ丘の取材を行っていて、そういった歴史的な背景も含め

て、今はよつグルメ研究会の事業と連携して、鹿放パンについては地域振興財団が商法登録を行うことになっています。

鹿放パンのヒヤリングをしたときに、当時のパンの袋に押しあつた木のハンコが出てきたので、そういうものも含めて使ってやっていこうということになり、歴史的なところを踏まえてこまで絡めていけるかということが今後の課題です。

【事務局（齋藤副主査）】

昨年度までの財団法人施設管理公社が、今年度、公益財団法人四街道市地域振興財団に移行したことに伴って、より地域に根ざした地域振興、地域おこしという視点で、このよつグルメ研究会やセンターの取組みに共感していただいて、現在は三者連携を図って、財団さんについては場を提供していただいて、センターは周知、広報部門を担当し、実施部隊としてよつグルメ研究会が研究を重ねていくというといった形で、今後どうアウトプットを図っていくかという中で、ひとつ産業祭を目標に取り組んでいき、その後どういった形で市内外に PR していくかについて三者で検討をしていく状況です。

【江口委員】

要望なのですが、次は四街道市の現代史そのものの中から生まれてきているという感じするのです。

是非その辺の意味合い、位置づけを大事にして進めてもらえるとありがたいかなと思います。

【中村委員】

今の江口さんの考え方すごくいいと思います。

先日マップ展示会があつたときに、意外と市内のことを知らないのですね。

私も鹿放ヶ丘のことは知っていましたが鹿放パンという言葉は初めて知りました。

ですからそれを絡めてやっていくともっと鹿放ヶ丘の歴史が深まってくるのではないかなと感じます。

【勝又（NPO グラブ）】

マップ展示会での四街道の散歩 13 コースの中で、鹿放ヶ丘の歴史も含めたコースがありますので、おっしゃっていただいたようなところも併せて発信をしきたいと思います。

【江口委員】

地域と大学の連携について興味があるのですが、大学生は4年間あるは2年間の在籍なので問題なのは大学の中にサークルのようなものができることによって、地域とのつながりが継続できるのではないかなと思っています。

四街道だけをターゲットとしたサークルはなかなかできないと思うのですが、四街道市と連携するターゲットとして資料に掲載されている大学の中にいくつか既にできているのか伺いたいです。

【事務局（齋藤副主査）】

全部把握してはおりませんが、おそらく四街道をターゲットとしたものはそれほどないのかなと思うので、仮に市として場が用意できるのであれば、学生たちが授業で学んだことの実践の場や自分たちの自己実現ができる場などを四街道市としてサポートしていきたいと常に考えております。

今年度につきましても、機会をいただけるのであれば大学を回らせていただいて、センターの取組みを中心に、市はこういった取組みを進めているというお話しさせていただいて、その中で関われる学生や、場合によってはゼミ、授業レベルで呼びかけしていきたいとは考えております。

【江口委員】

定期的に地域づくり体験プログラムの「コラボラ」をきっかけにまじやりに、淑徳大学の学生たちが何人か顔を出してくれてまして、継続してやっていきたいという意欲を言ってくれたのですが、こちらからの情報は出しているのですが、なかなか継続することの難しさということがあり、市民団体と学生の間をつなぐコーディネーター的な役割としてみんなで地域づくりセンターがどういう機能を果たせばいいのか、その辺についても検討していただければありがたいかなと思います。

【猿橋委員】

相談件数が平成 23 年度 50 件に対して 68 件ということでかなり増えていますが、それだけセンターが活躍されているのと、市民から見れば期待されているということで、すごく喜ばしい数字になっているのではないかなと思うのですが、その中で相談を受けた結果を単にお答えするだけではなくて、それを次のアクションに結びつけるというようなことが出てくるといいかなと思います。

12 ページで、地域の課題、活性化について 29 件という相談内容があるのですが、概略で結構ですので大体どんな内容で、何かそれに対してセンターないし市の政策としてどのような取組みにするかという検討など何かあれば教えてください。

【勝又（NPO グラブ）】

大きな動きというよりも個々の課題に対して答えてつながりができたということで、例えば物井で遊休農地を使って自給教室を始めたいという人に団体の方を紹介したり、有機農業をやっている人の野菜が地域とつながったなど、そういった地域づくり活動をする中でつないで欲しいということについて対応しています。

また例えばメンバーを集めるための方法や運営規約についてなどは直接お答えしたり、紹介したり、団体運営に関してアドバイスをしたり、「大きなテーブル」に関しても団体として参加することで何かできないかといった相談をいただくなどもあります。

それから高齢者支援施設のケアマネージャーから買い物支援のことについてつないで欲しいとか、そういういろいろな地域づくりのご報告の中で相談があった際につないだというところでは。

【庄嶋委員長】

次の議題の後、もう一度質問の時間をとりたいと思いますので、今の平成 24 年度の報告で平成 25 年度の計画と結びついている点も沢山あると思いますので、次の議題にいききたいと思います。

では 2 番目の議題、平成 25 年度の事業計画をお願いいたします。

【勝又（NPO グラブ）】

資料の 4 をご覧ください。

もう既に始まっているものについては資料 5 にチラシの形でありますので、併せてご覧

ください。

地域づくり課題への取組みのプロデュースに関すること、地域づくりを担う主体のネットワークに関するということに関しては、情報公開、意見交換の場の地域づくりサロンを開いたり、あるいは地域づくりをテーマとした講座を開いてネットワークを図って課題解決への取組みにつなげるということで、自治会情報交換会、防災ネットワークづくり、子ども支援団体交流会などに加えて、平成 25 年度は前年度にも行っていましたがマップ活用交流会は 6 月 25 日から 30 日に市民ギャラリーで「お宝マップ見本市」を開きまして、個人的に私は土曜日に行ったのですけれども、土曜日までに 300 人程の方が来場されて、それぞれ関心を持っていらして、四街道のことを知りたいとか、マップが欲しいとかという方がいらっしました。

日曜日までありましたのでもう少し参加者が増えているかと思います。

見本市については、千葉大学工学部の中谷先生が交流会にも関わっていただきまして、展示についてもいろいろアドバイスをいただきました。

広いブルーシートに四街道市の大きな地図を描いて、そこに見所のスポットの写真を撮るなどをしました。

それから平成 24 年度までに地域づくりサロンから誕生したグループなどの取組みをサポートして地域づくりを進めるということで、四街道こども記者クラブ、よつグルメ研究会、日替わりシェフの店「さくらそう」などセンターの事業から生まれたという経緯がありますので、サポートやともに地域づくりを進めていきたいと思っています。

あさひ寺子屋については先ほどお話ししました。

多様な人や団体が地域づくりに参加する企画として、福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」の第 5 回目を開きました。

これは新たに千葉市の団体も 1 団体加わり広がりがあります。

福祉施設を紹介する、あるいは交流する場、参加した同士がネットワークを作る場になっています。

次に記載されている「ちばユニバーサル農業フェスタ」というのは今年度新しく行うものです。

高齢化によって遊休農地などが広がる中で、シニア層で農業をやる方、地域で農業をやる方、それから障害者団体などが農業をやるなどがありますが、そういう人たちが農業を通じて出会い、交流し、働きあう「ユニバーサル農業＝みんなで関わる農業」の考えを広め、出会いの場を提供する「ちばユニバーサル農業フェスタ 2013」を四街道市で開催します。

農業の持つ可能性や価値を社会に発信するというところで、平成 23 年からちばユニバーサル農業フェスタ実行委員会が実施していて、今回で 3 回目なのですが、今年は県内複数会場も行おう計画しており、そのメイン会場として文化センターで行うものです。

ユニバーサル農業フェスタ実行委員会の事務局を地域創造ネットワーク千葉が行って、実質的に NPO クラブが事務局を担っている関係で、センターと地域振興財団の共催ということで実施いたします。

センターでも常に農業をテーマに市内の遊休農地の問題、市民として何かできることな

いかなど、センターのコーディネーターともヒヤリングをしていましたので、フェスタを通じて四街道での農業についての発信ができればと思います。

10月26日に開催予定で、申し込みの募集を7月から始めました。

次の地域づくり体験プログラム「コラボラ」は先ほどご説明しましたが、新しい動きとして四街道市の市民大学を運営する方、それから県の生涯大学のコーディネーターの方が受講生に地域づくり体験プログラム団体のプログラムの一覧を配布いただけるということで、8月末頃に配布、9月の中ばから体験をしようということになっています。

生涯大学、市民大学の中の方からも是非そういう体験をしましょうという声掛けをしてくださるので、体験につながるのではないかと考えています。

視察・職場体験の受入れ、学校との連携は先ほど申し上げたものの継続です。

情報の収集、把握、共有及び提供のところでは、センターニュースをリニューアルしたいと思っており、今準備期間ということで発行しておりません。

今までセンターの事業報告を2か月に一度発信してきたのですが、もう少し地域づくりに役立つ記事内容にしたいということで、まだ具体的に決まっておりませんが、秋に向けて検討していきます。

新しいところでは、センターのホームページを4月から立ち上げました。

その中でそれぞれやっている事業をプロジェクトとしてきちんと整理して発信していくということ、また四街道の動画などもそこから見られるようになっていきますので、四街道の魅力発信ということにも役立つサイトにしたいと思います。

それから地域づくりを担う主体からの相談は今までどおり継続的に行います。

ミーティングスペースの提供についても同じです。

各種講習会の開催で、今年一番の柱として連続全7回で行うのが「コラボ塾」です。

これはチラシが資料5にあります。

既に1限目と2限目を実施しました。

1限目ではみんなで地域づくりを進めていくための団体には提案力をつけてもらう、それから市職員の方も一緒に来て学んでいただくということで、講師は川北秀人さんに来ていただいて、協働について、何故協働を進めるかなどのお話を伺いました。

その中では四街道市の状況、高齢化がどのように進むのか、これからの課題はどういうことがあるのかということもお話をいただきました。

参加された方の感想から、受け身ではなくて自分たちで地域づくりをしていくことが大事だというような感想が出されています。

2限目は6月28日に行いまして、ここからは他市の協働の事例に学んで四街道の事業を考えていく力にしようということで、テーマが「高齢者支援の現状と課題」ということで、高齢者支援課の方から四街道市の現状と課題についてお話しいただいて、その後浦安の市民大学の講座から始まって介護予防の団体を作って、包括支援センターと連携して活動していると介護予防アカデミアの方、また自治会の勉強を中心に立ち上がったNPO法人ふれあい千葉の方に地域の高齢化と高齢者の見守り、買い物支援による金曜市、多世代交流などについてお話を伺いました。

お話を聞いて参加者がグループに分かれて、事例発表の方のお話を聞きましたが、

時間が足りないくらいで有用な講座だったと思います。

このように3限目、4限目も子どもたちへの支援、里山保全、農地保全について、事例紹介と意見交換、四街道市からの現状と課題などを学びまして、秋には実践としてアイデアのたねを掘り起こそう、提案事業を企画しよう、プレゼンをしようということで、コラボ四街道への提案や、提案しない場合でも地域づくり事業のきっかけにしていこうと考えています。

その他講座では「ママのための起業講座」を開いています。

40名近い申し込み参加がありまして、本当に子育て中のお母さんたちが沢山の山で、託児を10名で用意していたのですが、2名お断りするくらい集まりました。

若いお母さんたちが子育てしながら何か始めたいということについて、講師の話を聞いたり、みんなで話し合ったり、7月4日が第3回になりますが、そこでは事業計画を立てていきますが、3回では足りないくらいで今後もネットワークを生かして学び合うということにしています。

【庄嶋委員長】

ありがとうございました。

今度は事業計画について説明していただいて、事業計画は資料4に体系的にそれぞれ事業の位置づけが載せてありますので、整理して聞けたのではないかと思います。

それでは皆さんから先ほどの事業報告と事業計画とつながっているところもありますので、併せてご意見をいただけたらと思います。

先ほどまだご発言されていない方を中心にいただければと思いますがいかがですか。

【大沼委員】

今年の夏休みの小学生ボランティア体験で、手話団体の生徒さんなのですが団体名としては四街道がひらがなで「よつかいどう」なので一応お知らせしておきます。

もうひとつ「コラボ塾」の参加人数はどれくらいでしょうか。

【勝又（NPO グラブ）】

1回目に関係者を含めて60名くらい、2回目が45名くらいです。

最終的にははっきりした数字はまだ集まってきておりません。

【大沼委員】

その方たちは通しで講座を受けるということでしょうか。

【勝又（NPO グラブ）】

申し込みとしては通しで申し込まれていますが、開催しながらテーマごとに一回でも参加は可能ですと声掛けをしています。

例えば2回目の高齢者支援の話は自治会の方に是非聞いていただきたかったので、自治会情報交換会の参加者の方何人かにお話しています。

【大沼委員】

あさひ寺子屋の大学生スタッフとありますが、大学生はどのようなルートでコーディネートされたのでしょうか。

【事務局（齋藤副主査）】

昨年来、大学を回らせていただいたり、大学生を絡めたこども記者クラブなどの事業で

つながった方々を中心にお声掛けさせていただいております、そういったところからまた輪が広がっていき、ひとつの取組みがきっかけとなったいい例であると考えています。

あさひ寺子屋のスタッフがこども記者クラブにも参加したりと、横のつながりが出てきています。

昨年度をもって卒業された学生も多く、逆に現在は高校生などが先日の打合せに2人来てくださりまして、来年以降大学へ行っても参加して下さるとおっしゃっていただいております。

3月30日に開催したあさひ寺子屋では中学3年生が参加してくれたり、学校の先生も来てくれまして、現在は高校1年生になっていますが、そういった形で輪が広がっていけばいいなと期待しております。

【大沼委員】

マップづくりについて、聴覚障害者の方を通じてお話しを伺ったのですが、マップの中にトイレのマークがあるが、それぞれトイレの様式が違って同じ様式、形ではないので、トイレの写真があるといいなというお話もありました。

【渡邊委員】

コラボ塾についてですが、テーマごとに関係団体が集まっているということなので、コラボ四街道の応募をするときに同じような内容をやっていて連携できるような団体が二つ以上ある場合、一緒に応募するという事は可能なのですか。

【事務局（齋藤副主査）】

はい、むしろ望ましいのかなと思います。

全ての取組みが合致するものではないので、調整も必要だと思いますがエリアが限られた狭い四街道ですので、できればそういった調整が図っていただけたらと思っています。

実際、実践に向けてということで、3回実践編を行う予定になっていますので、そこできうまくコーディネーションできたらなと思います。

【渡邊委員】

先ほど出していただいた資料1の人数ですが、これは延べ人数ですか。

【勝又（NPO グラブ）】

延べ人数です。

【渡邊委員】

団体なども延べ数ですか。

【勝又（NPO グラブ）】

そうです。

【庄嶋委員長】

他にいかがでしょうか。

【小島委員】

よつグルメについて、せっかくいいものを作っていると思うので商品化のことや、商工会を取り込みなど、そういうことは考えていらっしゃいますか。

【勝又（NPO グラブ）】

1 回目から商工会の方には来ていただいております。

コアメンバーの中に商工会の方に入っていたり、政策推進課と産業振興課にも入っていただいております。

【小島委員】

商品化の目処とかありますか。

【勝又（NPO グラブ）】

是非、そうなって欲しいと思います。

【小島委員】

そうですね、ただ作って、試作して、それを販売してくれところまでつないでいければいいかなと思うので、商工会やお店、そういうところとつながっていくといいかなと思います。

【庄嶋委員長】

他にいかがですか。

【江口委員】

地域づくり体験プログラム「コラボラ」の件に関してですが、市民大学の方たちに働きかけをといるところで、去年も市民大学で、工藤さんがいらして声をかけていただいて、私たちが何回かお話しさせていただいたのですが、はっきり言って効果ゼロだったのです。

市民大学はいわゆる個人のためと、地域づくりのためと両面が市民大学の理念の中にあるはずなのだけれど、みんな個の方にだけみなさん希望者多く、地域づくりという方向になかなか目が向かないというのが、いわゆる高齢化社会になってからの課題として、私は逆じゃないかなと気がしています。

この間も社会教育委員会議でその辺の問題についてちょっと発言させていただいたのですが、このプログラムを組むに当たって、団体と市民大学の人たちと、そしてセンターとどのように混じり合って作っていいのか、その辺の見通しみたいなのは考えていますか。

【勝又（NPO グラブ）】

今回チラシを配ったところ市民大学の方が是非一つは体験しようという声掛けをしてくださるということで、昨年より一歩進んだのかなという印象は持っていますので、団体の方には 7 月 25 日にお集まりいただいて説明会を開くことになりました。

団体の方も一緒に考えて、自分たちが集めようということでやっていただこうと、その辺話し合いはしていきたいと思います。

【庄嶋委員長】

今回は市民大学の運営委員の立場の方から紹介していきたいという流れになったのでしょうか。

【勝又（NPO グラブ）】

声を掛けてどこかには参加しようとお伝えいただけるとのことです。

【庄嶋委員長】

一歩前進ですね。

【勝又（NPO グラブ）】

一步前進で、受入れ側も少ない団体では沢山の方の受入れができないので、多くの団体でいろいろなメニューも出して声を掛けていこうということです。

【庄嶋委員長】

今、いろいろな自治体で江口委員のおっしゃったような課題はあって、生涯学習の学びの場と地域活動を結びつけるところが 100%うまくいっているところはないと思うのですが、徐々に引き上げていければと思います。

私からひとつよろしいでしょうか。

先ほど子どもに関するものの中でいくつかあって、あさひ寺子屋、夏休み子どもボランティア体験がありますが、夏休みの子どもたちの過ごし方ということで、学校側でもサマースクールみたいな取り組みがあり、うちの大田区でもあったりして、それに加えてこういう地域の特性を生かしたようなボランティア体験などいろいろなことができればいいなと思って聞いていたのですが、逆に学校の側で取り組まれている夏休みの取り組みとか、そういうのはありますか。

【勝又（NPO グラブ）】

地域では通学合宿や寺子屋的な動きをやっているということで、センターのコーディネーターが見学に行ったりはしています。

【庄嶋委員長】

サマースクール的なものはどうなのでしょう。

【原委員】

学校によるのですが、四和小、八木原小もやっています。

通学合宿は四街道小と南小も行うという話は聞いたことがあります。

夏休みにあさひ寺子屋みたいなことを公民館でやりたいという声はどんどん出てきています。

【庄嶋委員長】

いろいろな間口という意味で、この寺子屋の動きなんかもそうですが興味深いなと思って聞いていましたので、地域の特性を生かして地域の人たちが子どもたちにいろいろな体験や何かをさせていくというのは非常に印象的でした。

他にいかがでしょうか。

【大沼委員】

コラボラのところでも市民大学についてですがのすけれども生涯大学の方でみんな地域づくりセンターにも行かれた方ですけれども、ボランティアセンターにもその後に来られて、やはり生涯大学を卒業された皆さんが京葉地区は 11 地区あって、そこを横のつながりでやっていきたいという提案があったのです。

四街道市でも生涯大学を卒業された方が大勢いらっしゃるのだけれども、その中には四街道市は割とボランティア団体として行動している方たちがいるのですけれども、他の市とかは卒業したけれども自分はこれから何をやろうかという感じの人が多いらしいのです。

それでコーディネーターの方が情報を地区センターなり、いろいろなところから情報ももらってその方たちに発信していきたいという活動を今後していきたいとおっしゃって

ました。

それでボランティアセンターもそうなのですが、そういう方たちが市内にも大勢いらっしゃるのだけけども、待っているとなかなかきっかけがないという感じでは、さっきの悩みもそうなのですが、例えばその方たちが集まっているところに出向くというようなことはなかなか難しいですかね。

【勝又（NPO グラブ）】

四街道市の市民大学のメンバーがみんな地域づくりセンターにいらしてその際に12月のコラボラに対してお願いしたのですが、逆にあちらの方からもっと言わなくては駄目だよといわれたのです。

1回ぐらいで止めるのではなくて、もっと働きかけなくては駄目だと言われました。

【大沼委員】

割と四街道市の人は積極的ですよね。

【勝又（NPO グラブ）】

地域の方というのは働きかけをしてくださるということです。

生涯大学の方は、四街道の方なのです。

交流会などに出られている方がコーディネーターの関係で、9月14日にボランティアでの参加というのがテーマを持って話があるのだそうです。

【大沼委員】

市民大学の方たちも少しは参加しているということですか。

市民大学の方たちはまだなのでしょう。

【勝又（NPO グラブ）】

前回のコラボラでは江口委員のおっしゃったように、何回かチラシを配ったけれどなかなか参加がなかったというのですが、今回、市民大学の中から働きかけをしてくださるということで期待しています。

【庄嶋委員長】

議題の方がまだまだ残りがありますので、一応前年度の取組みと今年度の計画ということで、これはまずいのではないかというものはないと思いますので、引き続き前年度のものをさらに生かして、新しいものも今年度加わってきていますから頑張ってくださいと思います。

本当に非常に多様な形で、年齢層も小学生を対象にするものから年配の方を対象にする市民大学への働きかけとかありますし、分野の方も非常に多様で自治会の活動もあれば、特産品という部分もあれば、産業に絡まるものもあるということがあります。

先ほど聞いていて若いママたち、女性の方々に対する起業相談ということもあって、他の自治体ではそれぞれが違うセンターが主催するようなものがひとつのセンターの中でやられている、四街道くらいの規模であればできるという部分もあるのかもしれませんが、それにしても沢山の事業が多方面に展開されていて、いろいろな人材が掘り起こされているのではないかと思います。

先ほどさらに働きかけが必要ではないかという意見がありましたが、その辺りを踏まえて頑張ってくださいと思います。

では2番目の議題はここまでとさせていただきます。

3番目の議題ですが平成24年度の地域づくり活動助成事業報告についてお願いいたします。

【事務局（齋藤副主査）】

事前にお配りしました資料7をご覧ください。

平成24年度の地域づくり活動助成事業の資料になります。

現委員におかれましては平成24年度からということで、この事業につきましては平成23年度末に前期委員の選考により採択された事業になっております。

6団体申請ありまして、5団体が採択されております。

そのうち4団体につきましては今回コラボ四街道にもエントリーしており、おなじみの団体かと思いますが、簡単にご紹介させていただきます。

ダンボールコンポストの会につきましては今回コラボ四街道の方にエントリーされて採択となっています。

四街道イルミネーション実行委員会は、冬にペットボトルをスカイツリーに見立てイトーヨーカ堂前の都市広場に行灯とともに点灯して皆様にお越しいただくイベントをされています。

サクラソウフェスタ実行委員会は、既に3年目の事業となっております、今年度につきましても4月に開催されております。

おひさんぽマップの会は昨年度が初年度の事業になりますが、お母さんたちのコミュニケーションのひとつのきっかけとして、お散歩を通した地域づくりという形でママ世代のお母さんが中心となって四街道市の自身が歩きやすい道や興味のあるお店などを紹介するマップを作る取組みになっています。

サンプルを配布しましたのでご覧ください。

今年の3月に完成したマップになりまして、これを使ったお散歩会も既に開かれており、実際に活用されているという報告を受けております。

四街道こども記者クラブは、昨年度の委員会でもご紹介させていただきましたが、市政だよりと連携を図りまして市内約3万世帯にこども記者クラブ通信を発行しました。

自分たちの興味のあることについて取材、発信する取組みとなります。

その後はそれぞれの事業の報告書となっております。

補助金も適正な執行をしていただきまして、精算まで済んでおります。

以上昨年度の地域づくり活動助成事業となります。

【庄嶋委員長】

ありがとうございます。

実際に行われた事業ですので参加されたり、見られたりしたものが皆さんあるかもしれませんが、何かご質問等ありましたらお願いいたします。

実際にこれは見ましたということの感想などでもかまわないのですが、いかがでしょうか。

【大沼委員】

資料7の7ページ目にある事業完了報告で5月の鯉のぼり祭り、8月、12月とあります

が、このイベントというのは千代田地区に行ってイルミネーションを作るというものでしょうか。

【事務局（齋藤副主査）】

そもそも四街道イルミネーション実行委員会の母体となっている団体が千代田地区にありまして、鯉のぼり祭り、灯ろう流しについてはこの助成を受ける、受けないのそれ以前から地域活動としてやられていた団体で、報告書については、母体となった団体がこういった取組みも一緒にやっていますといった報告であると理解しています。

補助金とは別の地域活動、自治会活動の一環となります。

【中村委員】

おひさんぽマップの中を見て、絵的にもすごくいいし家内も子どもじゃないけれど喜んでいました。

この取組みは今年初めてなのでしょうか。

【事務局（齋藤副主査）】

平成 24 年度事業で初めてマップ製作について補助金を使って行いました。

今年度についてはそれを活用したお散歩会や web 展開といったところでコラボ四街道において事業採択されています。

手書きでマップを書いて、手作り感たっぷり、おしゃれで大変好評です。

健康増進課とも連携が図れていまして、市内で毎年約 700 人の新生児が生まれるということでそのお母さんたちに配っていただくように 700 部、おひさんぽの会から健康増進課の方に提供があったそうです。

そういった形でママのコミュニティづくりのきっかけとして活用いただいているという話もいただいております。

【中村委員】

それに伴って今回このマップ交流会が 6,7 団体集まっていますが、みんなで地域センターすごく大きな役割を果たしてくれたなという感じがするのです。

今まではバラバラにみんなが同じようなことをやっていましたが、今回初めて見本市を開いて、あれでパッと頭の中に四街道が入りますよね。

ああいう諸団体を集める作業など、これからも効率のいいお金の使い方、知識の使い方があると思います。

これからもよろしくお願ひしたいと思います。

【庄嶋委員長】

他にいかがでしょうか。

【大沼委員】

クリスマスイルミネーションについて 2 年目ですが、リーダーの方に時々お会いすると、本当に裏でいろいろ苦勞されていて、でも少しずつ知れ渡っているというか、継続してできるような感じで、その時期だけ皆いい時期を過ごせるという感じで、いろいろな方が知ることになったのでここで止めずにできるように支援していければいいかなと思います。

【事務局（齋藤副主査）】

今年度事業としてエントリーがなかったのも、どうされるかは伺ってはいないのですけ

れど、ただ反響もかなりあったというところで、70代を超えている方々でどこまで続けられるかという不安も抱えられていたので、人的なサポートができればいいのですけれども、そういったご意思があるようでしたら、ご協力できる範囲で考えていければと思います。

【中村委員】

千代田でも70代だけこんなに広がって後は全部線が細くなっている。

人が先細っているので、これ全市的なものにしていかないと、千代田の枠の中だけでやっていたら本当に厳しいなと思います。

【江口委員】

それは本当に続いていくのかどうか怖いですね、いろいろな意味で。

【庄嶋委員長】

今はそういう意味で言うと地域に目が向いて、60代、70代の方々が地域にエネルギーを投下して、地域づくりが盛り上がっているという現実も、あと10年、20年経つてくるとまた様相が変わってくるのかもしれないけれど、ただ視線がこちらの地域に向いているということと、先ほどのおひさんぼマップみたいにまた違ったセンスで、若いお母さん方のセンスが入ってきて、それが形になってくるとすごくいいかなと思います。

私も大田区のいろいろな活動を見ている、お母さんたち視線での活動というのがいろいろ集まってきていて、例えば学校の読み聞かせボランティアというのが近頃ありますけれど、読み聞かせボランティアのネットワークを区の補助金を使って作って、そこで立ち上がった団体が最近新たに始めたのが学校図書室のリニューアルです。

子どもたちがより使いやすくなるように、配架の仕方を変えたり、スペースの取り方を変えたりして、子どもたちが本に親しめるようなリニューアルをコンサルしますよといった活動をしていて、私がPTA会長をやっている小学校でもそのネットワークのつながりがあったものですから依頼して、リニューアルするときには学校のおやじの会とかいろいろな大人がやってきて、例えば図書館の傷んでいるような書棚の修理をするのですけれど、そういうのは父親の仕事で、みんなで大工仕事をやったりしています。

そういうことをきっかけにいろいろな人たちが学校の中での親のつながりとかもある、そういう意味で次の世代、次のまちづくりを担っていくグループをつくるというチャンスにもなればいいのかと感じます。

では3つ目の報告は以上ということになります。

では、4つ目のみんなで地域づくり事業の提案制度についてお願いします。

【事務局（齋藤副主査）】

事前にお配りした資料8-1、8-2、8-3をご覧ください。

昨年度の2月の公開プレゼンテーションを受けまして、事業採択された団体、内容が記載されています。

既に別紙1、別紙2につきましては、先日の公開プレゼンテーションにおいてご確認いただいているところですが、改めまして紹介しております。

13団体申請で11団体採択され、そのうち11団体中10団体は既に補助金の交付申請が済んでおりまして、事業がスタートしております。

なお、サクラソウフェスタにつきましては、本年4月無事に事業が終了しております。

その他各種事業につきましても政策推進課またみんなで地域づくりセンターに相談に来られる団体もありまして、センターのスタッフがサポートに回ったり、事業の広報をしたりといった形で事業がスムーズに回るように進めているところです。

資料 8-3、今年の市政だよりに載せた内容となっておりますが、コラボ四街道の制度が掲載されており、コラボ基金という基金を設置して、基金から運用して事業を運営していくのですが、昨年度コラボ基金への寄付を募ったところ全部で 1,020 万円いただきまして運用に回しております。

続きまして 8-1 をご覧ください。

今年度も予定されておりますコラボ四街道の制度運用にかかるガイドブックの案です。

基本的に昨年度の内容を踏襲させていただいておりますが、昨年度まだ未確定だった部分を確定させ、多少の見直しをした内容となっております。

昨年度の反省も踏まえまして何点か修正点があります。

ガイドブック 1 ページ、本年度提案の募集期間をご覧ください。

昨年度につきましては制度初年度で 9 月議会を経てからの事業実施ということで、若干提案募集がずれた関係がありました。

提案書類の調整等に時間を要したこともありましてので、本年度につきましては昨年度 11 月 1 日募集だったものを 1 か月早めて 10 月 1 日に募集を開始したいと考えております。

募集期間につきましてはおよそ 1 か月半設けまして、その後担当課からの意見募集、また担当課との意見交換を経まして 12 月の中頃を目処に最終的に提案書類を提出していただくという予定です。

また公開プレゼンテーションにつきましても、昨年度と同様であれば 2 月頃、また場合によっては 1 月あたりで考えております。

ガイドブックの 11 ページをご覧ください。

ここは昨年度から修正を加えたところです。

昨年度仮提出期間を設け、なるべく多くの方に提案をしていただきたいということで、提案書、企画書、団体概要書のみ提出で可としていましたが、その書類に基づき担当課に照会をかけたところ、なかなか内容が伝わらなかったという反省がありましたので今年度につきましては、全て提案書類を提出いただいた上で担当課に照会をかけたいと考えております。

担当課に照会をかけた上で、さらに精度を高めていく期間ということで最終提出まで担当課と政策推進課、提案団体の三者で書類を作り上げていきたいと考えております。

そういったところも踏まえまして、今年度提案時期を早めさせていただきたいと考えていております。

13 ページをご覧ください。

昨年度はガイドブック案を出した時点で本委員会におけるコラボ四街道の審査基準が定まっておりました。

今年度につきましては、昨年度の審査基準を掲載しております。

16 ページをご覧ください。

去年もご紹介しましたこの提案につなぐための「アイデアのたね」についてです。

どんなアイデアでも形にしたいと思ったものを募集し、今年度は8月1日号の市政だよりに掲載して募集する予定です。

以上が去年のガイドブックからの変更点についてです。

資料8-2をご覧ください。

先ほど委員長からもございましたとおり、本制度は事業を実施して終わりではなく、しっかり評価した上でよりよい地域づくりにつなげていくために評価の制度を設けたいと考えております。

事務局案としてお示ししておりますが制度としてコラボ型とサポート型を設けておりますので、担当課との関わりも2種類あるということで、2つの評価のシートを案として作成しております。

まず、コラボ型については、提案団体と担当課が同じ様式に事業の評価を記載する形式です。

サポート型については、担当課との関わりが薄かったり、濃かったりと様々ですので1枚のシートに担当課の感想や担当課の感じた課題、ポジティブな意見、そういったところを記載してもらって評価シートとなっております。

なお、ここに設けている項目につきましては、資料8-2の最終ページに昨年度の審査基準5項目をベースに評価項目を記載しております。

平成25年度事業が終わりまして平成26年度に入りましたら事業報告が提出されますので5月、6月を目処に評価を行いたいと考えております。

【庄嶋委員長】

ありがとうございました。

【猿橋委員】

質問があるのですけれど、今の事業評価シートで、団体用というようなことで、自己評価が前提になっている訳ですね。

【事務局（齋藤副主査）】

コラボ型については、団体と担当課の自己評価です。

【猿橋委員】

自己評価と担当課の評価と両方あって、それを合わせた形で全体の評価があるという意味合いの評価制度になる訳ですね。

【事務局（齋藤副主査）】

場合によっては、事業報告会といった形のを設けてご報告をいただいて、委員会の皆様からご意見を頂戴して、委員会の中でも評価をという形で公表する方法もあるのかなということで、こちらの方も検討できればと思っています。

【庄嶋委員長】

コラボ型という、いわゆる市民団体と市が一緒になって組み立てられた事業と、サポート型というのは従来からあった補助金の仕組みに近いわけですがけれども、団体が事業を実施し、それを資金面で支援しますという形のサポート型という2種類があるわけです。

現在動いている事業はどれになりますでしょうか。

【事務局（齋藤副主査）】

資料 8-3 をご覧ください。

別紙 1 の提案一覧記載されておりますが、コラボ型につきましては「栗山みどりの保全事業実行委員会」が都市計画課と事業を実施しております。

また、「よつグルメ研究会」が政策推進課、産業振興課との連携で実施しております。

今回提案がありました団体につきましてはこの 2 団体がコラボ型で行政と連携して事業を進めております。

【庄嶋委員長】

特に緑の保全事業は計画を立てるところをから一緒にやっているのです、その実行段階をコラボ事業として一緒にやって行きましょうという流れなのです。

コラボ型の方がより両者が主体的に関わりながら一緒に作っていくので、まず自己評価というのも団体による自己評価と担当課による自己評価があって、ただその自己評価同士に矛盾するところとか食い違いがあるかもしれませんので、そういった食い違いを含めて委員会が見ていくということになればと思います。

サポート型は、団体の方が主体的にやっているのを市役所の方は資金面等でサポートするという形で、自己評価をまず先にやるのは団体で、その団体の自己評価を踏まえて担当課もそのことについて評価をして、さらにそれを踏まえて委員会が評価をするというような組み立てなのかなと思います。

そういったところも踏まえまして、評価の仕方とガイドブックの記載の内容などについてご質問、ご意見ありましたらお願いします。

【江口委員】

自己評価と行政の評価について、これは基本的には事業が終了した時点でやるわけですよ。

その評価を次にどう生かすとかという問題については、新たなコラボ四街道への申請がある段階では、こう変えましたとか、改善しましたとかいうことはできるのだけれども、その年度が終わってしまえば評価したことを生かすとか、それがどうなっていくのか、その辺が評価の段階で評価だけで終わってしまうのではないかと思うのですが如何でしょう。

【事務局（齋藤副主査）】

本来この制度は、継続性も審査のポイントになっていると思うのですが、取組みが打ち上げ花火で終わってしまうものなのか、地域に根ざした取組みになっているか、まず審査の段階で見極めていかなければいけないと思います。

継続的にしていくことで地域に根ざし、地域づくりにつながっていくような事業にしていくなために、おそらく採択もされていると思いますので、当然団体の意思で事業が終了してしまう場合もあると思いますが、できるだけ継続していくための前向きな取組み、意見をこちらから出せるようにしていきたいと思っております。

【江口委員】

原則 3 年間の提案ということでしたよね。

【事務局（齋藤副主査）】

補助金の関わりが終わった時点で取組みが終わってしまわないよう関わりなども考えていきたいと思っております。

【庄嶋委員長】

みんなで地域づくり推進委員会の評価の狙いとしては応援的な側面も期待されているのかなと思っています。

もちろん厳しい視点や改善点の指摘などはあるにしても、評価が妥当でないとか、ダメだったんじゃないかとかではなく、またさらにランク付けをして、うまくいったかいなかったかということ判断するのではなくて、より良いものになっていくのを応援するという形ではこのシートで表せていると言えます。

【事務局（齋藤副主査）】

自治体によっては点数化したり、グラフ化して、目に見える形の評価もあり、主観的な要素が大いに含まれますので、四街道市の地域づくりの取組みを応援していくという視点で委員の皆さんからのご意見を頂戴できればと思っております。

【庄嶋委員長】

コラボ型の場合はどうなるかなと思うのですが、例えば1年間やってみて2年目は役所の方がやりたくないと思ったとします。

そういう状況は結構ありまして、他の自治体の協働事業提案制度の評価で「1 継続したい」、「2 課題はあるが、継続したい」、「3 継続する必要性を感じない」のような評価がありますが、それぞれ団体と役所の部署が評価を付けることもあり、1と3に評価が分かれた場合に困ってしまうことがあり、そういうのがはっきり表れるようには多分ならないような気がするのですが、ただ意味合いとしてはあり得るわけですが、そういう場合にはどう考えたらいいのでしょうか。

【事務局（齋藤副主査）】

コラボ型で事業を行うこと自体が、評価を行う段階でしっかり振り返り等を担当課と行って然るべきだと思います。

しっかりとそういった場を持ち、調整をした上で評価をしていただきたいなという希望があります。

【庄嶋委員長】

後ほど今年度の予定を説明されるときに関係してくるのですが、評価をする事業が次年度も申請されることがあると思うので、逆にうまくいっていなかったら次年度の申請自体が成り立たないかもしれないということでもよろしいですか。

【事務局（齋藤副主査）】

この制度の本質的なところはそれぞれの取組みがどう地域に生かしていけるかということなので、補助金を申請しようとしまいと、コラボ型であろうとサポート型であろうと、取組みがどう地域にフィードバックできる評価をできるかという視点で整理できたらなと考えております。

【庄嶋委員長】

最終的にはこの評価シートも、事務局でさらに調整していただくことになると思うのですが、ひとつ確認があります。

事業全体の評価は、最初に立てた目標をどう達成できたかという観点になるわけですが、目標は申請時点で明確に設定していたでしょうか。

【事務局（齋藤副主査）】

目的がしっかり立てられているかという点も評価対象になっていまして、プレゼンにおける委員からのご意見を団体にお伝えして、それを踏まえた事業計画を団体によっては修正して補助金申請しているのので、申請時点でしっかりと目的が固まっているという前提の上で、その目的が達成されているのかどうかという評価になると思います。

【庄嶋委員長】

それでは、特にこれをこうしてという大きなご意見はありませんでしたので、案として示していただいたものに沿う形で、さらに補足などありましたら付け加えていただければと思います。

5番目の議題、その他よろしく願いいたします。

【事務局（齋藤副主査）】

資料10をご覧ください。

去年2月にコラボ四街道の提案募集をするに当たりまして、公開プレゼンテーションのご案内を昨年度ですと2月中旬頃と提案団体ご案内しましたが、今年度につきましてもおそらく1月、2月頃になるのかなということで、可能であれば今回もしくは次回までに公開プレゼンテーションの日程、進め方について大枠を決定できればと考えております。

そもそもこの1月、2月頃でいいのか、もっと早い方がいいのか、遅い方がいいのか、そういったことも踏まえまして次回までに決定できればと考えております。

また次回、センターの事業の上半期の報告をさせていただきたいと思います。

【庄嶋委員長】

スケジュールについては何かご意見がありますでしょうか。

【事務局（齋藤副主査）】

先ほど申しあげました本年度事業の評価については、年度末まで事業を行っている採択事業もありますので、事業報告を提出いただきまして、それぞれの自己評価も調整させていただいて、事業評価を5月、6月頃に実施したいと考えています。

評価に当たって報告書をもって委員会が評価するのか、また報告会といった形で場を設けて団体から事業を紹介していただく形で評価を行うのか、こちらについても次回までに決定できればと考えております。

【庄嶋委員長】

評価が入ってきて、今年度は新制度を始めて1年目で、評価する対象がないので少し余裕があるのですが、評価をやっていくとなると今後は大きな議題になりますし、報告会形式でやるとすると審査会をやったのと同じような報告会が行われることになるので、それが年度の第1回ということになっていくこととなります。

そうすると今、年間の予定では4回を計画しているかと思いますが、そのうちの1回が事業評価の報告会になると、議題の設定や年間4回の役割が少し変わってくることもあるので、その辺は次回に検討しましょう。

年間スケジュールの作り方が変わってくるかもしれませんがということも頭に置かれていてください。

【事務局（齋藤副主査）】

資料 9 をご覧ください。

県内各市町村において市民団体、事業者、ボランティア団体といわゆる協働して行っている各担当部署の事業一覧が掲載されております。

庁内においては政策推進課市民活動推進室で協働を推進しているところですが、各部署においても掲載のような内容で団体との連携が図れているといったところの報告となります。

【庄嶋委員長】

四街道は数の上では多い方なのでしょうか。

【事務局（齋藤副主査）】

市町村規模では比較的多いと思います。

【庄嶋委員長】

これはホームページに掲載されていますか。

【事務局（齋藤副主査）】

県のホームページに掲載されています。

【庄嶋委員長】

最後に連絡事項があります。

【事務局（齋藤副主査）】

先ほどもありましたが、みんなで地域づくりの視点で市の魅力を発信していこうという取組み「ドラマチック四街道プロジェクト」を始めました。

配布したクリアファイルにもありますがまず、みんなで地域づくりセンターで進めております四街道に関わるすべての方の「四街道に対する想い」をスケッチブックに書いていただいて、それを撮影し、みんなで地域づくりセンターのホームページに日めくりカレンダー形式で載せていく「みんなでカレンダープロジェクト」を進めております。

365 枚撮る予定です。

イメージとして市政だよりをご覧ください。

今までにない形で市民の方を撮らせていただいて紹介しております。

是非、皆さんもご協力ください。

もうひとついわゆるプロモーション動画を制作し、四街道市の魅力を発信していきたいと考えています。

四街道市は一見すると何も無いところですが、何も無い日常にある魅力を伝えていきたいといった視点で、「ドラマチック四街道はじまります」ということで動画を制作しました。

【中村委員】

ものすごくいいですよ。

【事務局（齋藤副主査）】

今、取組みとしてはこの 2 つですが、こういった取組みを効果的にかわいらしくナビゲートしてくれるキャラクターとして「よつぼくん」が誕生しました。

四街道地域振興財団と連携協力して制作しました。

クリアファイル、缶バッジ、うちわなどグッズ展開もしています。

プロモーション動画についても市の動画チャンネル YouTube にアップしております。
またドラマチック四街道のホームページ、facebook、Twitter も立ち上げましたので、是非ご覧いただき、応援していただければと思います。

【庄嶋委員長】

はい、ありがとうございました。

では以上で、今年度第1回のみんなで地域づくり推進委員会を終わりたいと思います。
お疲れさまでした。